

令和6年度 津幡町立津幡中学校 学校評価 <最終評価>

1回答…より肯定的回答

1+2回答…肯定的回答

重点事項	内容	評価の観点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判定			
				1	%	1+2	%
1 学力向上	(1)授業力向上	【生】授業の中で、自分の考えを持ちことができている 【教】授業中に、生徒を褒めたりアドバイスをしたりしている。 【教】生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めるような発問や指導をしている。	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A A D	54 41 19	A A A	91 100 85
	(2)ICT機器等の活用 ★町共通	【教】生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている。	A 50%・80%以上 B 40%・70%以上 C 30%・60%以上 D 30%・60%未満	D	22	D	59
	(3)家庭学習の充実	【生】自分で計画を立てて勉強している。 【保】わが子の家庭学習の状況を把握している。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	D D	25 23	D C	66 76
<評価>		・授業改善の取組が進んでおり、教師・生徒アンケートともに数値が向上している。特に協働学習の実施率が全教科で大きく向上したことにより、グループ内での意見を発表する生徒、自らの学びの深まりを感じた生徒、自分自身の意見をしっかりと持てる生徒の割合が大きく向上した(いずれも生徒対象学習アンケートより) ・家庭学習の定着に関しては、引き続き家庭と連携した取組の強化が必要である。					
2 生徒指導の充実	(1)あいさつの定着	【生】家庭や地域で自分からあいさつしている。 【教】家庭や学校でしっかりあいさつすることを指導している。	A 80%・95%以上 B 70%・90%以上 C 60%・85%以上 D 60%・85%未満	C D	61 39	B A	94 96
	(2)無言清掃の徹底	【生】無言清掃に取り組んでいる。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	B	41	B	87
	(3)人間関係づくり	【生】学校へ行くのが楽しい。 【生】学級では安心して過ごすことができている。 【教】生徒間や教師との人間関係が温かなものになるよう、学年・学級の充実に努めている。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	B B C	55 59 41	B B A	90 93 100
	(4)いじめの根絶	【生】いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	A 90%・95%以上 B 80%・90%以上 C 70%・85%以上 D 70%・85%未満	B	82	A	96
<評価>		・挨拶については、教師の1の回答が極端に低い。教師自らが範を示しながら、挨拶の大切さや意義を生徒に粘り強く伝え続けなければならない。また、地域への関りが大切であることを学校行事などを通して伝える必要がある。 ・人間関係づくりにおいては、生徒間は概ね満足できる数値であるが、生徒と教師の良好な関係づくりをさらに向上させる必要がある。					
3 信頼される学校づくり	(1)たより、HPの充実	【保】学校は子どもや学校の情報提供を適切に行っている。 【保】学校からの情報(たより、HPなど)をよく見ている。	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D D	43 30	A B	94 80
	(2)小中連携した英語教育 ★町共通	4技能を3年間で系統的に育成できているかの指標の一つとして、3年生時の英検3級以上の取得者数を追跡調査していく。	A 3級以上 35%以上 B 3級以上 30%以上 C 3級以上 25%以上 D 3級以上 25%未満				
<評価>		・保護者からホームページが充実をしているとのコメントをいただく機会もあるが、アンケートの数値は昨年度の同時期と同程度である。今後も学校の教育活動について保護者、地域への情報発信に努めていく。					
4 教員の人育成	(1)若プロ	【教】若プロ研修の内容が充実している。(ミニOJT研修、メンターとの懇談等)	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D	33	A	100
<評価>		・若手教員が自らアドバイスを求める姿勢を大切にしつつ、若手のニーズに合うプログラムを考えていきたい。					
5 多忙化改善に向けた取組の推進	(1)時間外勤務の縮減 ★町共通	【教】時間外勤務時間が80時間を超える教職員の割合 ※学期ごとの割合で評価	A 1学期35%以下 2学期25%以下 B 1学期40%以下 2学期30%以下 C 1学期45%以下 2学期35%以下		9月 … 15% 10月 … 24% 11月 … 14% 12月 … 0%		
<評価>		・昨年度と比較し、1学期は11.0ポイント減少し、2学期は、0.9ポイント増加した。引き続き、業務の進捗状況等を注意深く見守りながら、指導・支援に努めていく。 ・今後も可能な範囲で業務を精査し、平準化を図るなど、多忙化・多忙感を軽減する取組を継続していく。					